

別記様式(第7条関係)

会 議 録

1 会議の名称 富士川町障害者施策推進協議会

2 会議日時 令和3年12月1日(水) 午前10時00分から
午前11時30分まで

3 開催場所 保健福祉支援センター

4 出席者数

- (1) 委員 7名 欠席者2名
- (2) 事務局 4名
- (3) 傍聴者 0名

5 議題

- (1) ふじかわ障害児・障害者プランについて(令和2年度実績と評価)
- (2) その他

6 会議資料の名称 別添のとおり

7 発言の内容

① 開会

② 会長あいさつ

※深澤会長よりあいさつ

③ 議事

- (1) ふじかわ障害児・障害者プランについて(令和2年度実績と評価)
※事務局より説明

委 員：障害手帳の所持者数を見ると身体手帳は減少しているが、精神手帳や療育手帳の所持者が増えている。この協議会の委員について、精神の分野に関係する委員がいると良いと思う。

事務局：委員については、ご意見を参考に来年度の改選時に検討したい。

委員：自立訓練（機能訓練）は、ニーズがあっても利用できない状態が続いているとのことであるが、利用を促進させるような施策を提案していただきたい。

事務局：自立訓練（機能訓練）の事業所は、町内にはなく、県内にも4か所しかない。多くの人は病院のリハビリに通っているため、利用者が少ないものと考えられる。こうした状況を県にも伝えていきたい。

委員：就労移行支援の事業所の確保が課題となっているという状況について、どのような手立てで事業所の確保を目指すのか具体的に知りたい。

事務局：他町との連携を通して確保していきたい。

委員：任意事業の部分について、障害者相談員の相談会事業も掲載していただきたい。

事務局：障害者相談会については、障害者相談員の皆さんのご協力のもと10月に2回開催させていただいた。資料に掲載されている任意事業の項目については、国の地域生活支援事業であるので、別の項目で掲載するか検討させていただく。

委員：放課後等デイサービスは、町内で2か所あるがこれから増えていくのか。町外には多いが、峡南圏域として増やしていったほしい。

委員：峡南圏域の中でいくつかそういった意見はいただいている。しかし、他圏域の子どもの数と比べると、峡南はどうしても少ない。事業所を開設しても利用者を確保できない可能性が高い。今後の子どもの数や利用者数で左右される。また、長期休暇で利用される場合が多く療育というよりは、預かりという考えが強い。本来であれば、日中一時支援を使ってもらうのが妥当。職員の確保も難しい。ただ、現状を知るためにも、こうした意見を出してもらえるとありがたい。

（2）その他

事務局：最近の事業所の状況等を教えてください。

委員：現在、ステップ増穂は、就労継続支援B型と計画相談を行っている。
そのほか、ひきこもり相談センター「ここから」を運営している。就労移行支援については、6名の職員で5年間行っていたが、就労移行を希望する人が集まらなくなり、就労移行支援を終了した。今後ニーズが上がってくれば当然地域の資源としてなくてはならないと思っている。B型の定員についてもニーズがあれば増やしたいと思っている。13年目であるが、定員も利用者の数も年々増えてきている。仕事内容を精査しながら、事業所として仕事を確保できている。
コロナ対策としては、60人の利用者がいるが、建物に入る前に検温や体調の報告をしてもらう、作業中は間隔を開けてもらう、休みの日はなるべく人混みに行かないようにというようお願いをしている。コロナ対策をしながらというのは大変であるが、利用者は仕事に取り組むことで、仲間と一緒に仕事ができる喜び、仲間と働ける喜び、また仕事として社会の中の一員だということで、自分の価値や誇りを感じられている。現在、2名の方がコロナ禍になってからお休みをしていますが、彼らにも出てきてもらいたいと思っている。
現在、下請け作業を中心に各企業に仕事をいただいているが、より実践的なものが必要であると考えている。野菜なども取り組んではみたが、なかなかうまくいかなかった。休みの日も世話をしなくてはならないので、職員の負担が大きかった。洋ナシも作ったが、消毒の仕方が難しく、実際に売り物になるものはほとんど取れなかった。農協に依頼し、ジュースにして13本販売させてもらった。
ひきこもり相談センターでは、7月に福井県の議会議員が視察に来られ、「小さい町であるのにこうした活動をしていることに感心する。私たちも帰って実績を広げたい」と話していた。現在登録者数は約30人、福祉就労やアルバイトに繋がったケースが10人、ひきこもっていた方が定期的に外に出られるようになった方が6人。ひきこもり相談センターの対象者は、15歳以上となっているが、15歳になる前から学校や教育委員会と連携し、早期から情報共有できるための仕組みが必要であると考えます。
計画相談事業については、富士川町の方が最優先であるが、南アルプス市から多くの方を頼まれている。県全体で相談事業所が足りない実情がある。

委員：峡南圏域の事業所では、どこも同じような現状である。人口はかなり減っており、高齢化が進んでいる。障害者の方は不規則な増え方をす

るため、今後どのように施策を展開するかという問題がある。サービス事業所については、少しずつ増えているが、実際は定員が埋まっていないような状況がある。

A型の事業所は、峡南圏域に2か所しかない。ハローワークからA型事業所を紹介され、すぐに相談支援センターに計画を作ってくれと依頼されるケースがあるが、その方の実態が分からないので非常に困っている状況がある。A型利用の希望があったときは、利用方法やその方にあっているかどうかのアセスメントの重要性が課題となってくる。

コロナ禍でのこの一年は、数字的にはさほど影響が出ていないような部分が見えてくるが、実際には短期入所施設で利用を受けられない状況があった。

委員：親の立場から話をさせてもらおうと、コロナで困ったという話は届いていない。何か困ったことがあれば声を上げるようには言っているが、本当に困らないと声を上げづらい様子。こういったサービスがあるから使ってみたら等、提案はしてはいるが今は必要がないと断られてしまう。何か起きてからでは遅いので、どこに何があって、何をやっているのかも知らない状態なので、そういう繋がりのようなものがあれば嬉しい。

委員：こちらにもあまり相談は来ていない。本当に困ったら、町に行くと思うが、次に繋がるきっかけになるような段階になってくれるといい。こういう場所に教育の人が入ってくればいい。支援学校の生徒であれば把握はできるが、普通高校や通信高校になると把握ができない。仕事ではなく、コミュニケーションや社会性などを身に付けていく事業所がないといけない。

委員：もう少し啓発活動に力を入れてもらいたい。差別や偏見がいまだに多くある。精神障害の分野にもどなたか委員に入っていただき、精神の分野の話もできたほうが良い。もう一つは、相談業務を充実させていたいただきたい。相談会はできれば定期的にやれるような形を取ってもらえればと思う。

事務局：本日皆さまからいただいたご意見については、今後、検討する中で改善できる点については、改善させていただきたい。

⑤ 閉会